

Every woman has the power to change her life for the better



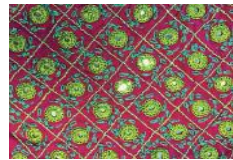
EJAAD とは、ダリ語でイノベーション（革新）。長期にわたる紛争や貧困、女性差別などにより、教育や就労の機会を得ることが困難なアフガニスタンの若い女性たちを応援する新しいプロジェクトです。



みなさま、こんにちは。1年ぶりにニュースレターを発行します。

この間、多くの出来事や変化がありました。特に今年2月以降は、世界中が予想せぬ事態に覆われました。アフガニスタンではコロナ感染拡大防止のため、首都カブールが数か月にわたり完全封鎖され、市民生活が立ち行かなくなっています。エジャードのメンバーの家族でも父親や夫が失業し、日々の食べ物にも事欠く事態に。そのような中、女性たちが家でできる刺しゅうなどの手仕事は、ますます貴重な収入源となっています。現地ではようやく封鎖が一部解除され、女性たちが集まって刺しゅうのデザインを考えたり縫製のトレーニングもできるようになりました。外部から指導者が入れないため、今はお互いに得意なことを教えあっています。日本でも感染拡大がなかなか収まらない中、予定されていたイベントがことごとく中止され、作品を紹介するチャンスが少ない状態ですが、国境を越えて力を合わせ、この難局を乗り越えていきたいと思っています。

EJAAD CREATIONS 2019-2020



2019年は8月と11月、2020年は2月に現地から日本（大阪）・ニュージーランド・サウジアラビアへ刺しゅう作品が航空便で届きました。大阪では「エジャード・ジャパン」としてジェニファーとユリコがそれぞれ学校や地域の人たちに活動を紹介し、作品を頒布しています。刺しゅうポーチをアレンジした手作りバッグも大好評！



← 豊中のマーケット@カフェ・サパナにて

↓ 子どもたちも参加した刺しゅう体験ワークショップ
@箕面市立多文化交流センターにて



洋裁・和裁が得意なユミコさんは心強いサポーター。その豊かな感性と経験を生かして、刺しゅうポーチをステキなバッグや壁掛けにアレンジしてくれています。



ジェニファーさんの教え子のミナさんは、スクールフェスティバルなど様々なイベントでリーダーとして子どもたちを引っ張り、アフガニスタン支援活動の種をまいてくれました。

EJAAD LADIES

エジャードには現在 13 人の女性が所属しています。その中の 2 人をご紹介します。

SHAFIQA (プロジェクト・コーディネーター)

一番年長でリーダーとしてチームをまとめている。自宅を研修に提供し、マーケットに材料を買いに行き、出来上がった作品をチェックし・・・エジャードにとって大きな存在で、皆が信頼を寄せている。タリバン支配時代には両親とともにパキスタンのペシャワールに避難していた。料理作りも得意で、とくに Ashak というパスタ団子(?)の伝統料理が大好き。



ANISA (コミュニケーションリーダー・英語教師)

タリバン支配時代にパキスタン・ペシャワールの難民キャンプで生まれ、幸い教育を受けることができ、英語教師となった。最近ようやく家族とともにアフガニスタンに戻り、新しい生活をスタートした。チームの中で唯一英語が話せるため、海外のメンバーとのコミュニケーションの核となる貴重な存在。若く明るく、やる気満々で、これからの活躍が楽しみです。「エジャードの一員になれてとても嬉しい！この収入で弟たちを学校に行かせられます」



その他のメンバーの声より

RANA 「以前は全て父親に買ってもらっていたけど、今は自分の物は自分のお金で買えます」

SAMIA 「この仕事は自分の家でできるし、安全な場所に集まって皆と一緒にすることもできます」

SHYSTA 「新しい技術を学ぶのはうれしい。2月に生まれた娘の養育費の助けにもなります」

SHYSTA のベビーMEDINA を抱くアブドゥル



EJAAD TODAY & FUTURE

2017年にスタートして以来、女性たちが作った刺しゅう作品を海外で紹介・販売してきました。その売り上げの合計額は 2017年 550ドル→2020年 1793ドルと、小規模ながら少しずつ増えています。2020年2月に大阪に届いた 50点以上の作品については、コロナ禍の中、すべて前払いで買い取ることを決め、5月のラマダン(断食月)前に現地へ送金しました。売上金はその作品を作った本人に直接手渡されています。

将来的には自立した運営のもと、ソーシャルビジネスへの転換を目指していますが、現地の状況が安定するまで、もうしばらく支援が必要です。

現在下記のご寄付を募っています。

- *新しいミシンの購入(1台あたり60ドル)
- *現地スタッフの給料(2人分で月100ドル)
- *刺しゅう糸や布地など材料費(月200ドル)
- *その他、交通費、海外への輸送費など

OPENING EJAAD LEARNING CENTER

現地責任者アブドゥルの自宅近くの土地の寄贈を得て、エジャード・ラーニングセンター(研修所)を作ることになりました。小さな2階建ての建物を刺しゅうなど手工芸・縫製のトレーニングや作品作りの場とします。また、識字教室や子どもたちの居場所もほしいという希望も出ています。その建設費のご支援もよろしくお願いいたします。

皆さまからのご寄付はアブドゥルを通じて確実に現地にお届けします。

【ご寄付の送金先】ゆうちょ銀行 記号 14050 番号 78813871 ツツイ ユリコ
Paypay やその他の方法をご希望の方は個別にご連絡ください

EJAAD PROJECT 運営メンバー



ABDUL(アフガニスタン・カブール在住) 現地代表
アフガニスタン政府機関に勤務
元大阪大学留学生



ANDREA(サウジアラビア在住) ニュージーランド出身
2017年にカブールを訪問し
この活動をスタートした



JENNIFER(大阪・茨木市在住) アメリカ出身 千里国際学園で「アートは世界を変えることができる」と伝えている



SANDRINA(オーストリア在住) ミャンマーはじめさまざまな国でのソーシャルビジネス立上げ支援の経験をもつ



YURIKO(大阪・豊中市在住) ネパールでの活動経験を生かして手作りの日本での紹介と販売を担当している